

《1. 研究報告》

| | |
|----------------------------|--|
| 助成年度 Grant Year | 2023 |
| 研究テーマ Research Title | オープンダイアログ（開かれた対話）のミーティング方法をプログラムの基盤とした「経験専門家養成講座」が精神障害者の主体性と社会参加に与える影響 |
| 研究代表者 Representative | 下平美智代 |
| 代表者所属機関 Organization | 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 |
| 職名・課程名 Position/Program | 客員研究員 |

①研究概要

研究の背景、目的・リサーチクエスト、学術的重要性、対象について記述してください。

<背景>

「経験専門家 (Experts by Experience)」は、障害を持つ当事者個々の「経験」を尊重し敬意を表した呼び名である。所沢市では、フィンランドの対話的ミーティングを取り入れて、2021年から所沢市在住もしくは在勤等の精神障害を持つ当事者を対象に「ところざわ経験専門家養成講座」を行っている。講座は、お互いの経験を聴き合うことで講座そのものがピアサポートの場となり、相互的なエンパワメントの機会になっていると考えられる。修了生の進む道はそれぞれで、必ずしも経験専門家として発信の活動をしているわけではないが、自己の経験を客観的に振り返り、今の自分自身を肯定し、社会参加の行動が増えていると考えられる。しかし、これまで系統だった調査は行われていない。

<目的・リサーチクエスト>

「経験専門家養成講座」修了生を対象に半構造化面接を行い、講座が修了生の主体性と社会参加に与える影響について検討する

<学術的重要性>

オープンダイアログに関する先行研究によると、対話を主体とした治療を受けた統合失調症等の精神疾患を持つ患者の予後はよく、5年後調査で7割以上の患者が就労もしくは就学していた。しかし、オープンダイアログのミーティング方法を基盤とした経験専門家養成講座の効果は検討されていない。

<対象>

「ところざわ経験専門家養成講座」第1期から第5期修了生 25名

②研究の経過（研究課題Ⅰ）

研究課題Ⅰについて、課題名と実際におこなった内容を具体的に記述してください。

研究課題Ⅰ：経験専門家養成講座修了生の講座後の主体性と社会参加についての調査

実施内容：講座修了生のインタビュー（半構造化面接）調査

講座1期から5期修了生合わせて25名を対象に、インタビュー調査について、メーリングリストで一斉に案内を送った。参加表明をした修了生には個別にEメールもしくは電話連絡をして、日程を決めて、個別に半構造化面接を行った。面接は2024年8月に開始し2024年12月まで行った。調査はインタビューガイドを用いて2人の修士以上の学位をもつ研究経験のある調査者（筆者含む）が行った。インタビューガイドは、付録1の通りである。

データ分析法は、数量的データについてはカテゴリーごとに記述統計量を算出した。質的データについては、ナラティブ研究法のテーマ分析を用いている。これは、多様な語りの中に立ち現れる共通のテーマを探索する方法である。データの切片化はせずに、話し手の構築した文脈を維持したまま話の筋をとらえる。話し手によって語られたことは、リサーチクエストの「経験専門家養成講座が主体性と社会参加に与える影響」について、受講前と受講中、受講中と調査時点における変化の文脈でとらえ、意味上のまとまりを取り出し、それぞれのテーマを見出した。

③成果・期待される波及効果等

研究を実施して得られた成果および期待できる波及効果について記述してください。

<成果>

本研究では、講座修了生 25 名の内、10 名のインタビュー調査により、回答者のすべては友人との交流を日常的にしており、7 割が福祉的就労もしくは一般就労に就いており、8 割がピアサポート活動や経験専門家活動をしていることが示された。また、経験専門家養成講座のなかで語り、聴くことが、参加者が自分自身の感情や感じていることに気づきを向けるきっかけとなり、講座修了後に主体的な社会的交流や社会参加していく端緒となる可能性が示唆された。

<期待される波及効果等>

本講座は 2021 年から始まり、現在も一年度に 2 期の講座が開催されている。運営スタッフが変わってもプログラムの質を維持して講座を実施できるように、講座運営のためのガイドラインを作成中である。今後は本研究結果も参照にしつつ、さらにガイドラインの改訂を行い、2025 年度から筆者と共同研究者が実施していく予定の講座の他地域適用事業に活かしていく。

期待できる効果としては、所沢市と所沢以外の地域でも、精神障がいをもつ人々が、経験専門家養成講座のプログラ参加を一つのきっかけとして、相互にエンパワメントされ、それぞれが主体的に、経験専門家活動やピアサポート活動を行うこと、さらに就労などの社会参加を行うことである。

④成果物

本研究について発表した論文、刊行物、シンポジウム等の情報を記載してください。

参照 URL がある場合はそれを含めてください。

<講演>

・リカバリーをめぐる対話：オープンダイアログとピアサポート。精神保健福祉講演会。小平市けやきの会（精神障害者家族会）。小平市福祉会館小ホール。東京。2024 年 7 月 13 日。
<https://keyakinokai.localinfo.jp/posts/54333595>

・ピアサポートと対話～安心安全な場で語り、聴くことの意味～。近畿ピアサポート・ピアスタッフの集い。オンライン。2024 年 9 月 14 日。

<https://www.facebook.com/photo?fbid=801930808588535&set=a.410366521078301>

<論文>

- ・執筆準備中

<TEBET ガイドライン>（付録 2）

・ところざわ経験専門家養成講座（TEBET）プログラムのフレームワークとファシリテーターのためのガイドライン（Version_202409）draft 2. 2024.（改訂途中の講座ガイドライン）（付録 2）

<インタビューガイド>

- ・個別面接調査のためのガイド（付録 1）

⑤写真

研究実施中の様子、成果物等の写真を掲載してください。(各写真にキャプションを付けてください。)

経験専門家養成講座ファシリテーター事前ミーティングの様子



精神保健福祉講演会（東京都小平市）における発表の様子

